

時下、ますますご清勝のこととお慶び申し上げます。平素より、大変お世話になっております。

9月に、当劇団の1年ぶりの新作本公演がとり行われる運びとなりました。公演情報を送付させていただきます。お取り上げの程、心よりお願い申し上げます。



## ブルドッキングヘッドロック vol.29

# 田園にくちづけ

2017年9月22日（金）～10月1日（日）@下北沢 ザ・スズナリ

公演企画書

# 1年ぶり! 18年目のブルドッキングヘッドロックの新作は、 舞台上に再現不能の『味の記憶』を描こうとする、 甘くて苦くて時に辛い、味な群像劇!

映画『桐島、部活やめるってよ』の脚本で注目を集め、今年もドラマ『下北沢ダイハード』や『伊藤くん A to E』など、話題作に脚本を提供し続けている喜安浩平が、約1年ぶりのオリジナル新作を、ホームグラウンドのブルドッキングヘッドロックに書き下ろします。

喜安自身の家族体験をベースに、誰もがきっと秘めているであろう、『あの忘れられない味の記憶』という題材を通じ、過去への執着、家族の実像、愛の行く末、記憶の功罪、などを、丁寧に、“おかしみ”をもって描きます。

肝心なのは味の記憶。もうそこには無い、きっと再現する事も出来ない、その時だけの味の記憶。それぞれの脳裏にこびりついた、その人だけの味の思い出について、登場人物たちが語り合い、交わし合うことで、舞台上で俳優が食さずとも、むしろ食すよりも鮮明に、観客もみんなが味わえる、そんな、演劇ならではの、演劇だからこそ目論める、味の喜劇をご堪能いただきます。

今回の企画、一昨年からNEW ERAと称し挑んできた、劇団の試行錯誤が反映されています。緻密なおかしみ、落語から学んだ想像力、新世代の台頭、喜安の熱い味への固執、それらが混ざり合い、ブルドッキングヘッドロックの新たな代表作が、満を持してお目見えいたします!



2016年秋『バカシティ』“落語”をモチーフとした軽演劇を2作同時上演。体一つでおかしみを描く落語の強さに挑戦。



2017年春『コンストラクション ダイアグラム・オーバー ザ ディメンション』劇団員を年代別に3チームに編成。全員が脚本開発から参加し、若手は自由に挑戦する機会を獲得した。

## その味を、憶えているか——。【作品紹介】

過疎が進むとある田舎町。そこに、東京からグルメ漫画家の実松(瓜生和成)と、その娘(葛堂里奈)が引っ越してくる。

数年前、新しいアシスタント(吉川純広)を迎えてから様子がおかしくなった漫画家一家。理由の見えない引越しを機に、いよいよ彼らを訝しがらなくなった担当編集者(山岸門人)は、親戚の見合いと祖父の死去が重なるという奇妙なきっかけで町に戻ってきた青年、耕太(浦嶋建太)に、真相究明の手伝いをもちかける。

やがて耕太は、漫画家一家の奇妙な生態を目の当たりにし、巻き込まれる。漫画家一家とは、「くちづけ」をすることで、その相手から「記憶」を奪い取ることができる、異能の者たちだったのだ。実松のグルメ漫画は、そうして奪った「味の記憶」をネタに描かれていることを、編集者は未だ知らない。

一家によって、町の住人たちの「味の記憶」が奪い取られていく。ある者はおふくろの味を。ある者は思い出の味を。ある者は、初めてのくちづけの記憶を…。それは、くちづけという名の、侵略であった。

ただ、一人だけ、耕太だけがその渦中不在。耕太には、「うまい味の記憶」が無かったのだ。彼には、まずいメシを作る母(深澤千有紀)と、何十年も黙って食い続ける父(永井秀樹)の記憶しかないのだった。

青年と、家族と異能の一家。そして、彼らに振り回される町の人々が交わし合う、忘れじの、味の記憶の物語——。

### 作・演出：喜安浩平から

「私には、農作業中の事故で利き手の指を全て失った祖母がおりました。母が不在の折、その祖母が代わりにと焼いてくれた玉子焼きが、私にとって、忘れられない、私だけの味の記憶となっています。不自由な反対の手で焼いてくれた、とてもとても不細工で、とてもとても鮮烈な、私だけの玉子焼きでした。

そのことをそのまま脚本に描くほど野暮なことはいたしません、舞台の上に、あの時からずっと抱えて、引っ張り出すたびに濃くなっていく、あの『味』と『記憶』の功罪を描き出してみようと思っています。それは演劇にしかできない、豊かな挑戦のように思うのです。

ご覧いただいた後、ほんの少し酒が、ご飯がうまくなる、そんな時間になればと願って精魂込めます。次に誰かと食べるメシのことが、新しい味の記憶となりますように」

## 【主要キャスト紹介】



### 葛堂里奈 (ブルドッキングヘッドロック)

1990年生まれ。東京都出身。  
バウムアンドクーヘン所属。170cmの長身が特徴的な俳優。  
2013年、ブルドッキングヘッドロックに入団し、今作で7作目の出演となる。浮世企画、オーストラ・マコンドーなどに客演。  
ドラマ『刑事7人-第2シーズン』第五話清水利沙子役など。  
他映画、CM、ラジオCMなどで活動中。



### 浦嶋建太 (ブルドッキングヘッドロック)

1988年生まれ。三重県出身。  
鈴鹿工業高等専門学校機械工学科卒。2013年、ブルドッキングヘッドロックに入団し、現在は劇団員として活動中。主な出演舞台に、ブルドッキングヘッドロック『1995』、『バカシティ』、『雪ロード埋没』、江古田のガールズ『ご不幸』などがある。



### 瓜生和成 (東京タンバリン)

1970年生まれ、千葉県出身。  
1990年代、遊○機械 / 全自動シアター・ナイロン 100℃などの公演に参加後、1998年に東京タンバリンに出演しその後劇団員となる。主な出演作に、【舞台】タカハ劇団『パラデソ』、西瓜糖『いんげん』、東京タンバリン『どんてん』、椿組『三太おじさん』、小松台東『勇気だしてよ』、ONEOR8『さようならば、いざ』、aibook『疾走』、【映画】『食堂かたつむり』監督：富永まい、『3月のライオン 後編』監督：大友啓史、【テレビ】TBS『深夜食堂2』、CX『救命病棟24』、HTB『幸せハッピー』等がある。



### 吉川純広

高校卒業後、上京。CM ナレーターとして活動後に演劇の世界へ。倉持裕氏のペンギンプルペイルパイルズの劇団員として2006年以降、全ての作品に参加。2014年退団後、自らも演劇の企画制作をしながら、近年では喜安浩平脚本による學蘭歌劇「帝一の國」、残酷歌劇「ライチ☆光クラブ」、舞台「パタリ口!」など漫画を元にした2.5次元演劇と呼ばれる公演に出演。映画「Mr.マックスマン」ドラマ「火災調査官 紅蓮次郎シリーズ」などの映像作品、Yakult presents「小さな小さな物語 TOKYO」(FM 毎週日曜 12:25～12:30)のレギュラーなど、ジャンルを問わず雑種活動している。

## 【主要キャスト紹介】

### 山岸門人

1982年、東京都出身。  
関東国際高校卒。2015年まで劇団鹿殺しに所属。近年の主な舞台に「サイケデリック・ペイン」、「市場三郎 温泉宿の恋」などがある。ブルドッキングヘッドロックには「1995」に続いて2度目の出演。近年は映像への出演も多く、最近の出演にテレビ「あなたのことはそれほど」(TBS)、「立花登青春手控え2」(BS プレミアム)、TV-CM「ニベア花王 8×4 MEN デオドラントボディウォッシュ」などがある。



### 吉増裕士 (ナイロン 100°C/リボルブ方式)

1998年より劇団「ナイロン 100°C」に所属。2000年には自らが作・演出を手掛けるユニット「リボルブ方式」を旗揚げし、舞台を中心に活動中。主な近年の出演作品に、舞台「ホテル・カルフォルニア～HOTEL CALFORINIA～」(脚本・演出：大堀光威)、僕たちが好きだった川村紗也「ゆっくり回る菊池」(作・演出：青木秀樹)などがある。



### 山本真由美

舞台、映画、ドラマ・CM等で活躍。2016年より約一年、主演映画「Every Day」(手塚悟監督)が全国で上映中。2015年田辺・弁慶映画祭にて主演映画「サーチン・フォー・マイ・フューチャー」(松本卓也監督)が三木聡により女優賞含め三冠獲得。2017年10月より「ナラタージュ」(行定勲監督)に出演作が控える。

父は桂米朝一門の落語家桂米八(満58歳没)桂文喬の外弟子となり、桂喬香の名前を得る。役者同士や松尾貴史と共に上方落語を披露するなど活躍の幅を広げている。特技は、日舞・茶道・中国語。



### 永井秀樹 (青年団)

1966年生まれ。大阪府出身。  
早稲田大学商学部卒。劇団「青年団」所属。小劇場を中心に主に舞台での活動を行なっている。外部出演も多く、ラップ屋、KERA・MAP、弘前劇場などにも出演。海外公演も数多く経験している。近年の主な出演舞台に、青年団公演『ニッポン・サポート・センター』、『ソウル市民』、『暗愚小伝』、『フェスティバル/トーキョー』『台風奇譚』、玉田企画『怪童がゆく』、『臆病な街』など。主な出演映画には『桐島、部活やめるってよ』(監督：吉田大八)などがある。その他にテレビやCMなどの映像の分野でも活躍の場を広げている。



## “おかしみ”を、求め続けて18年。【劇団プロフィール】

2000年結成。「グロテスクな日常に、ささやかなおかしみを」をテーマに、不安、悪意、狂気といった現代の人間が抱える様々な生き苦しさを描きつつも、その生き苦しさが故に発生してしまう、ささやかな“おかしみ”に着目した舞台作品を作り続けている。

2013年、2015年と劇団員オーディションを敢行。経験と若さ入り混じる21名（休団者除く）もの集団力を駆使し、近年では、18年間提唱し続けてきた“おかしみ”のさらなる浸透のために、観客を招いての公開脚本会議の開催、内覧会と称した通し稽古の公開、公演中の劇場で観客とお酒を酌み交わしながらのアフタートーク、舞台映像の上映を交えての作品解説、生動画配信、外部脚本家との赤裸々な脚本家談義など、本編以外の企画も充実させ、独自の観劇体験を提案している。

2005年、MITAKA “NEXT” selection6（三鷹市芸術文化センター）に参加。

2014年、同劇場で、太宰治作品をモチーフにした演劇第11回公演を上演。

2008年・2010年、サンモールスタジオ最優秀団体賞を受賞。

2015年、結成15周年記念公演『1995』を上演。1,600人を動員。

2017年4月、主宰と劇団員による合同脚本開発企画を開催。1時間の新作掌編を3作同時に上演し、劇団の創作力を証明してみせた。現在も、脚本開発会議は継続中。掌編の再演、地方上演など、次なる展開を画策中。

今作の『田園にくちづけ』が、29回目の本公演、28作目の完全新作となる。コントでもコメディでもない、丹念な“おかしみ”の成果をご堪能ください。



vol.28 『バカシティ』 たそがれ編  
(2016年11月@こまばアゴラ劇場)



vol.27 『スケベの話～オトナのおもちゃ編～』  
(2016年4月@ザ・スズナリ)

## 【喜安浩平プロフィール（作・演出・主宰）】



1996年、広島大学教育学部美術科卒。在学中に演劇活動を開始。1998年、劇団「ナイロン100℃」のオーディションに合格、現在も所属俳優として活動中。

2000年、「ブルドッキングヘッドロック」を旗揚げ、2008年より主宰を離れ、作・演出に専念していたが、2015年2月、劇団主宰に再就任。

2013年より毎年、JMS 広島アステールプラザにて、演劇学校劇作家コースの講師を担当。都内での演劇ワークショップも精力的に開催し、後進の育成に注力している。

2012年公開の『桐島、部活やめるってよ』において脚本を担当、2013年日本アカデミー優秀脚本賞を受賞。

### 近年の仕事（脚本）：

～2015年

【映画】「桐島、部活やめるってよ」（監督：吉田大八）

【映画】「幕が上がる」（監督：本広克行／原作：平田オリザ）

【映画】「ストレイヤーズ・クロニクル」（監督：瀬々敬久）

【舞台】「ショーシャンクの空に」（演出：河原雅彦）

【舞台】學園歌劇「帝一の國」【第一章】【第二章】（演出：小林顕作）

2016年

【朗読】朗読「東京」第4回 ※演出を担当

【舞台】【第三章】學園歌劇「帝一の國」- 血戦のラストダンス - （演出：小林顕作）

【舞台】せたがや子供プロジェクト2016キッズ・ミュージカル「ワンサくん」（原作：手塚治虫、演出：小林顕作）

【映画】「ディストラクション・ベイビーズ」（監督：真利子哲也）

【映画】「幸福のアリバイ～Picture～」(原案・監督：陣内孝則)

【ドラマ】「徳山大五郎が誰を殺したか？」(企画・原作：秋元康)

【ドラマ】NHKスーパープレミアム「獄門島」(原作：横溝正史)

2017年

【ドラマ】テレビ朝日「サヨナラ、えなりくん」(企画・原作：秋元康)

【ドラマ】テレビ東京ドラマ24「下北沢ダイハード」※『夜逃げする女』担当 (監督：関和亮)

【ドラマ】ドラマイズム「伊藤くん A to E」※1～2話担当



## 【公演概要】

■作・演出：喜安浩平

■出演：

葛堂里奈／浦嶋建太／瓜生和成（東京タンバリン）／吉川純広／山岸門人

寺井義貴／深澤千有紀／猪爪尚紀／はしいくみ／小笠原健吉／

竹内健史／橋口勇輝／高橋龍児／平岡美保／山田桃子

山本真由美／吉増裕士（ナイロン 100℃/リボルブ方式）／永井秀樹（青年団）

■タイムスケジュール



※当日券の販売開始は開演の60分前、開場は開演の30分前です。

★ネタバレ呑み会 in スズナリ! 9月24日(日) 15時の回終演後

終演後の劇場で、作品に関するあれこれをざっくばらんにお話する呑み会。

作・演出の喜安浩平や出演者が、皆さんの質問にもお答えします。

ノンアルコールでも大丈夫!一緒に乾杯いたしましょう!(参加料:500円 1ドリンク・おやつ付き)

■ザ・スズナリ

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 1-45-15

TEL: 03-3469-0511/FAX:03-3468-0080

アクセス: 小田急線・井の頭線下北沢駅南口より徒歩 5分

■チケット

一般発売: 2017年7月23日(日) 10:00～

自由席(ベンチシート): 前売券 /3,600円 当日券 /3,900円

指定席: 前売券 /4,200円 当日券 /4,500円

◎初日割(9/22(金) 19時の回) ※ブルドッキングヘッドロックのみ取り扱い

自由席(ベンチシート): 前売券 /3,300円 当日券 /3,600円

指定席: 前売券 /3,900円 当日券 /4,200円

U-18割引(18歳以下対象・枚数限定・前売当日共・公演当日要身分証明書)

/1,800円 ※ブルドッキングヘッドロックのみ取り扱い

■チケット取り扱い

●ブルドッキングヘッドロック <http://www.bull-japan.com/>

●カンフェティ <http://www.confetti-web.com/> 0120-240-540 (平日 10:00～18:00)

●イープラス <http://eplus.jp/> (PC/携帯)

《問い合わせ先》

ブルドッキングヘッドロック制作部 〒180-0006 武蔵野市中町 2-5-20-106

070-5590-1731 (受付時間 12:00～20:00) [info@bull-japan.com](mailto:info@bull-japan.com)

最後までお目通しいただき、ありがとうございました。  
ご質問等ございましたらこちらまでご連絡ください。  
稽古場やゲネプロの取材も歓迎いたします。